

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	①-19	実施計画番号	134	事業開始年度	17
事務事業名	「十和田湖ひめます」の安定供給			事業終了年度	
担当課名	とわだ産品販売戦略課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	「十和田湖ひめます」ブランド力向上事業を実施し、流通に係る梱包資材やリーフレットの作成、急速冷凍設備の導入に対し支援する。				
事務事業の目的	「十和田湖ひめます」のブランド力の向上を図り、安定供給を確立する。				
実施状況	急速冷凍冷蔵設備の導入により、生食可能な冷凍の十和田湖ひめますの供給量が増加した。流通に係る梱包資材やリーフレットについては、「十和田湖ひめますブランド推進協議会」が作成するブランドロゴに合わせて作成することとしたため、平成27年度は見送った。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	243	243
	人件費(千円)	2,160	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	4,193	4,300	1,000

【指標】

活動指標	活動指標名①	十和田湖ひめますブランド推進協議会の設置			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
				1	
	活動指標名②	ブランド力向上に資する補助の実施			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	補助金の額	千円	0	3,300	1,325
成果指標	成果指標名①	生食可能な状態で販売する割合			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		%	目標値	80	80
			実績値	50	67
			達成度(%)	84%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 十和田湖ひめますのブランドの向上は、漁業、観光産業、飲食業など他分野との連携が必要のため。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	3	成果向上の余地 3 / 6 十和田湖増殖漁業協同組合へ急速冷凍冷蔵設備の導入を支援し、生食可能な状態での通年販売が可能となったが、未だ通常冷凍量が残存している。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 地域ブランドとして「十和田湖ひめますブランド推進協議会」のブランド推進に係る活動を支援することで効率的な実施に努める。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 特になし。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
現在の適性					16 / 20	改善の余地 4 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 急速冷凍設備の拡充により、品質保持を確保するとともに、漁協のマンパワー不足を解消するための方策が必要。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。 十和田湖ひめますの食の提供改善によりイメージアップを図るとともに、取扱う認証店舗の増、認知度の向上を目指す。